

The 44th International Food and Beverage Exhibition

FOODEX JAPAN 2019



第44回 国際食品・飲料展

2019.3/5 火 ~ 3/8 金 10:00~17:00 (最終日は16:30まで)

会場 幕張メッセ 全館 入場料 5,000円(税込)



私たちが 出展 いたします!

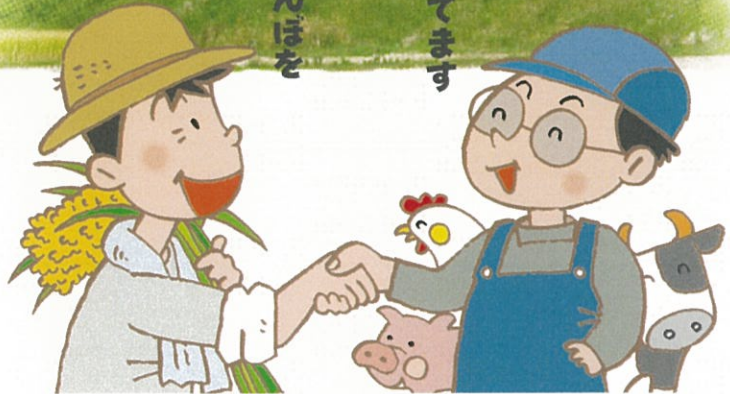


飼料用米を食べて育った
おいしいお肉と卵を食卓に!

家畜の飼料として利用する米は、私たちが主食として
いるごはんの「食用米」と区別して、「飼料用米」と
呼ばれます。飼料用米を活用した日本の畜産につい
て消費者の皆様理解を深めていただき、おいしく、
新鮮で、安心して選んでいただける田んぼ発の日本
の畜産物を毎日の料理にどんどん利用していただく
ことが私たちの願いです。

日本の田んぼを
フル活用

お米で
家畜を育てます



日本養豚協会のブースでお待ちしております。

出展生産者(予定)

石井養鶏農業共同組合

<http://www.ishii-hiyoko.jp/>

宮城種豚センター

<https://akagikogen-livestock.jp/>

茨城農女ファーム

<http://ibaraki-agricultur.wixsite.com/mysite>

川添ヤギ牧場

<https://yagimilk.himawarimilk.co.jp/>

有限会社タローファーム

<https://tarofarm.com/>

昭和鶏卵株式会社

<http://www.showa-keiran.jp/>

有限会社加須畜産

<http://www.kazokazo.co.jp/>

有限会社ブライトピッグ千葉

(東総食肉センター株式会社)

<http://brightpig.co.jp/>

大里畜産(株式会社大里食肉センター)

<http://www.oosato.co.jp/farm/map/index.html>

株式会社大商金山牧場

<https://www.taisho-meat.co.jp/>

新潟ときめき生活共同組合

<https://niigata-tokimeki.jp/>



※写真はイメージです。

楽天市場 まち楽 いちおし企画

「国産のお米で育ったおいしいお肉と卵を食卓に!」はこちらへ!

<https://event.rakuten.co.jp/area/japan/okomesodachi/>

ご来場に関する商談のお問い合わせはこちら

出展事務局
(株式会社アンテナ内)

TEL 03-6856-4701

FAX 03-6862-7788

日本養豚協会(JPPA) URL:<http://pig.lin.gr.jp/>

米活用畜産物等全国展開事業 事業実施主体
一般社団法人 日本養豚協会(JPPA)

ぜひ貴社でお取り扱いしてみませんか？

私たちが飼料用米を利用して育てたおいしい畜産物を提供します！



飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト 受賞者の皆さん

【農林水産大臣賞】

「日本の米育ち 平田牧場の金華豚・三元豚」

株式会社平田牧場(山形県)

- 品種や飼料にこだわり、日本のお米をあてて健康に育った平田牧場の金華豚・三元豚は、上質な脂が特徴です。
- 肉のきめが細かく、真っ白で甘く舌先でとろける上質な脂肪は風味の違いを決定づけます。また、プロの料理人からも高い評価を受けています。



【農林水産省 政策統括官賞】

「豊の米卵」

有限会社鈴木養鶏場(大分県)

- 卵味分析では、一般的な鶏卵と比較し旨味や甘味が強く、まろやかな味わいです。
- コレステロールが低く、ビタミンB1、その他のB群、ビタミンEなどが多い特徴があります。



【JA全中 会長賞】

「玄米育ち岩手めんこい黒牛」

農業生産法人 有限会社キロサ肉畜生産センター(岩手県)

- 隔月一頭毎に体重測定を行い、健康チェックや出荷の適齢期を見極め、徹底した個体管理を実施しています。
- 獣医師と連携し健康な牛づくりに邁進します。
- 地元産の飼料用米の活用のほか、堆肥を活用した循環型農業を推進しています。



【公益社団法人中央畜産会 会長賞】

「伊勢美稲豚」

株式会社大里畜産(三重県)

- ISO22000マネジメントシステムで全部門統括管理し、安心して安全な豚肉を提供します。
- 甘みを増した風味のあっさりした美味しい肉が特徴です。
- 今後も、美味しさと安全を保ちつつ、堆肥等の資源循環や耕畜連携を推進し、地産地消に取り組みます。



私たちがめざすのは、
循環型(持続型)の農業です。

- ①従来、輸入に大部分を頼っていた家畜飼料の自給率の向上を図り、畜産物を安定的に供給していくこと
- ②食料の生産だけでなく多くの機能を持つ水田を減らさず、若い農業者も意欲的に農業を継続できること

この大きな2つの目的のために、稲作農家と畜産農家、加えて行政、研究機関、流通関係者などあらゆる関係者が協力して「お米を畜産物に活用していこう」と協力を進めています。



このロゴマークは、
お米で育った畜産物の取組を進めるために作成しました。

お米で育った畜産物

出展事務局
(株式会社アンテナ内)

株式会社アンテナ 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-5 住友不動産九段下ビル6F
TEL:03-6856-4701 FAX:03-6862-7788 日本養豚協会(JPPA) URL: <http://pig.lin.gr.jp/>